

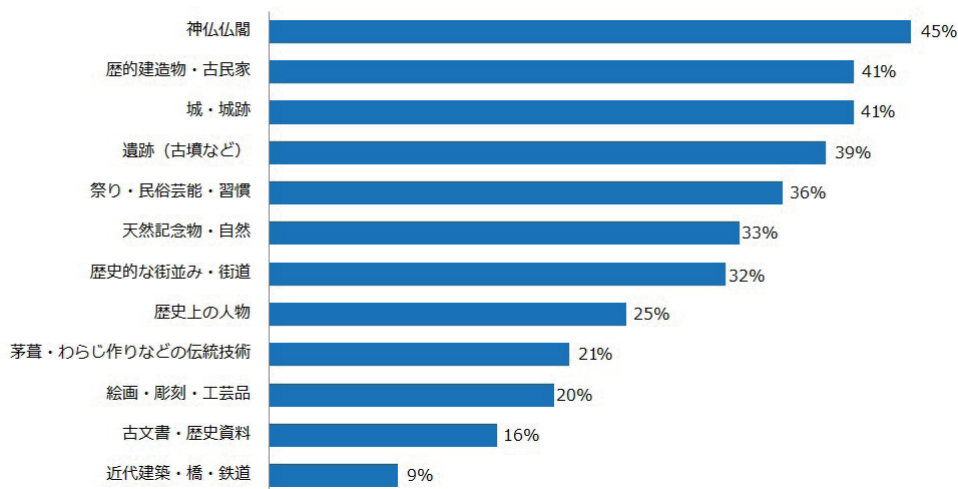
第6章 市の歴史文化に対する市民意識

今回の基本構想策定にあたり平成29年度に16歳以上の村山市民を対象として「村山市の歴史文化に関するアンケート」を実施しました。このアンケートでは前章までで整理した村山市の自然・歴史環境や地域ごとの歴史、市内の指定文化財などを基に加え、実際に暮らす地域住民が村山市の歴史文化についてどのように考えているのかについて、調査したものです。

〈質問1〉は、どのような文化財に関心を持っていますかという質問です。回答としては神仏仏閣が最も多く、次に城跡、歴史的建造物と続きます。傾向として、時代の中で人の手によって作られ、保存されてきた“有形文化財”への関心が強いようです。また、祭りや民俗芸能といった“無形文化財”や天然記念物といった“自然遺産”、歴史的な街並みといった“景観”にも高い関心がある一方、近代建築や古文書などに関しては、余り興味を抱いていないということがわかりました。

〈質問2〉は“村山市らしい”文化財や歴史を市外の人にPRする場合について質問したもので、最上徳内と最上川三難所、そして居合道に多くの回答が集まりました。特に最上徳内と居合道については、関心に関するアンケートでは上位に来なかった人物に関する歴史文化であり、市民が抱いている村山市の誇りは直接の興味とは異なるという傾向が確認できました。

〈質問1〉 関心のある文化財・文化遺産はどのようなものですか
(複数回答)



〈質問2〉 村山らしい文化財・文化遺産として、人にPRしたいものは
どれですか (3つまで回答)

